

【宍道湖水位が低い場合】

- 50年に1回の洪水に相当する規模の降雨は、確率計算を行った結果、時間雨量70mm、24時間雨量は247mmとなります。
- 現在の整備状況での治水安全度を検証した結果、概ね50年に1回に発生する洪水に対して治水安全度は確保されています。

【宍道湖水位が高い場合】

- 50年に1回の洪水に相当する規模の降雨は、確率計算を行った結果、時間雨量39mmとなります。
- 現在の整備状況での治水安全度を検証した結果、50年に1回に発生する洪水に対して治水安全度は確保されていません。(→現在は概ね30年に1回に発生する洪水に対する安全度です。)
- 大橋川が河川整備計画(今後20年間の計画)で改修された後は、概ね50年に1回に発生する洪水に対して治水安全度は確保されます。

⇒【当面は、現況河道において治水及び環境に配慮しながら適切な管理を行う】

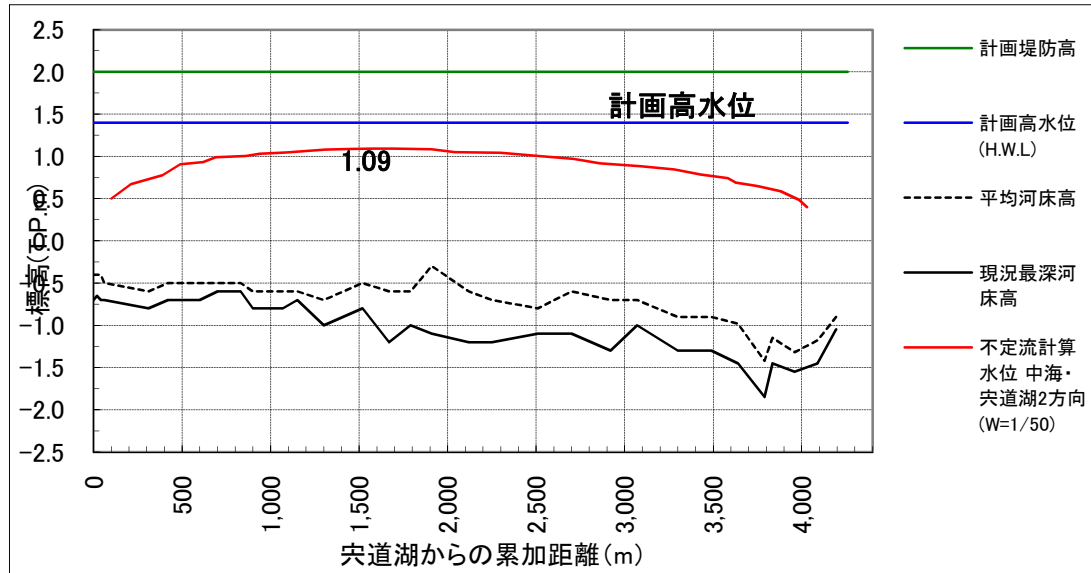
- 近年局地的豪雨が頻発し、降雨も激化する傾向が見られる。

⇒【将来的には、局地的豪雨(時間雨量50mm以上)による洪水に対して治水安全度が確保されるよう検討します】

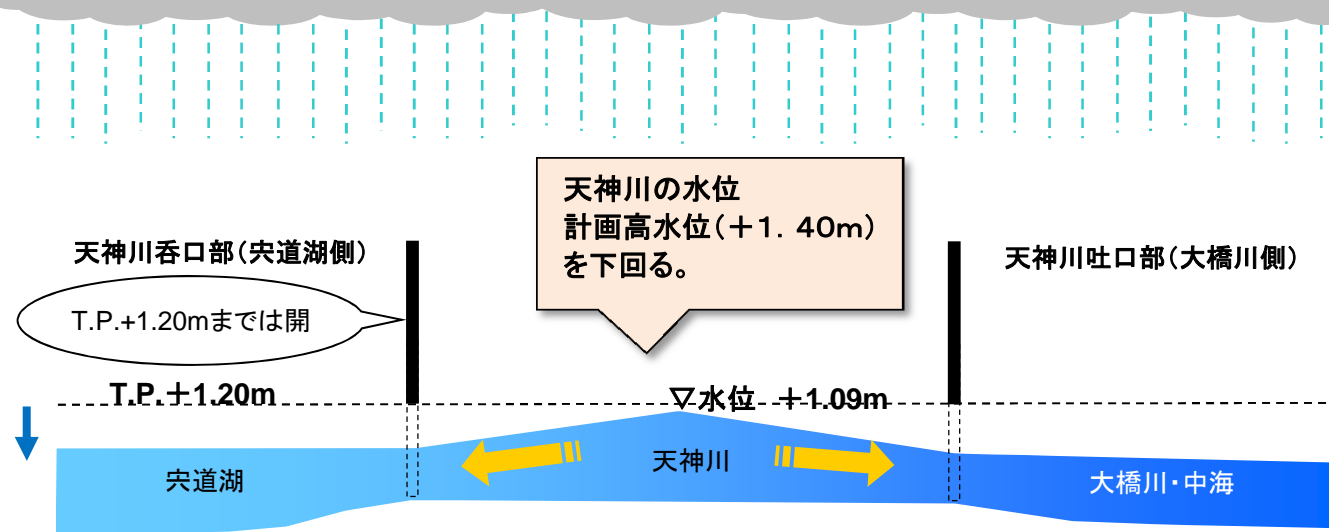
- 白潟、朝日地区については、松江市公共下水道整備計画に基づき下水道(雨水排水)で整備する内水排除ポンプと雨水排水を導くための雨水幹線に対応します。 ⇒資料8

治水安全度の検証(宍道湖水位が低い場合)

- 天神川の流れ : 宍道湖(上流)と大橋川(下流)の2方向へ流れる。
- 現在の整備状況での治水安全度を検証する。
天神川 : 現況河道 (矢板護岸はほぼ完成し、一部の護岸と河床掘削が残る。)
- 治水安全度 : 1/50の確率規模の洪水に対して、天神川の水位は、計画高水位の標高(T.P.)+1.40mを下回る。

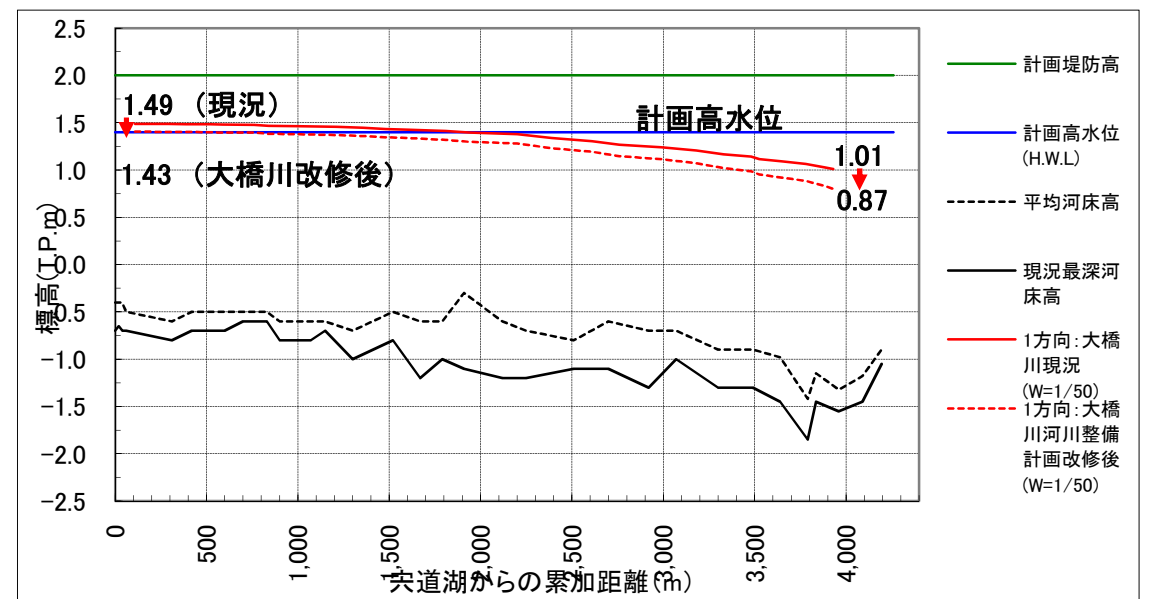


50年に1回の洪水に相当する規模の降雨 時間雨量70mm



治水安全度の検証(宍道湖水位が高い場合)

- 天神川の流れ : 宍道湖(上流)の水門が閉門となり、洪水は大橋川(下流)の1方向へ流れる。
- 現在と大橋が河川整備計画で改修された整備状況での治水安全度を検証する。
天神川 : 現況河道 (矢板護岸はほぼ完成し、一部の護岸と河床掘削が残る)
- 治水安全度 : 大橋川が河川整備計画で改修されると、1/50の確率規模の洪水に対して、天神川の水位は、T.P. +1.43mとなる。



宍道湖水位が高い時の50年に1回の洪水に相当する規模の降雨 時間雨量39mm

